

## 第7回 日本臨床検査学教育学会学術大会

寺平 良治\*

## はじめに

第7回日本臨床検査学教育学会学術大会が、平成24年8月22日(水)~24日(金)の3日間、名古屋国際会議場にて開催されました。今回は中部地区で初めて開かれ、担当校は藤田保健衛生大学でしたが、名古屋近辺の臨床検査技師養成校(名古屋大学、信州大学、岐阜医療科学大学、中部大学、鈴鹿医療科学大学)も一緒に協力して実務に当たりました。また、大会1日目の夜には記念式典・懇親会が開かれ、2日目には日本臨床検査学教育協議会(日教協)教員研修会も同時開催されました。

本大会には文部科学省、厚生労働省の後援を頂いていますが、今回は新たに日本臨床衛生検査技師会(日臨技)からの後援も頂きました。その関係で、大会には日臨技会員も参加され、我々日教協が担っている技師の卒前教育の現状について、日臨技の参加者に理解を深めて頂くことができました。初期の技師教育を担当する学校現場と臨床現場の双方と一緒に将来の技師教育の在り方を議論していくことは大変重要で、今回日臨技の後援が得られたことは意義深かったと考えています。

テーマは『新しい臨床検査技師教育の創成に向けて』とし、その新しい教育を具体的に創成するために、サブテーマ「教育・研究の検証」も掲げられました。患者中心医療への急激な変化と、めまぐるしく進歩、発展し、変化が著しい臨床検査学の動向に、柔軟に対応できる有能な人材を育成

していくためにも、本大会において、これから求められる新たな教育の創成に繋がるような萌芽的議論を深めて欲しいとの願いからでした。以下に本大会の報告を致します。

**第7回  
日本臨床検査学教育学会学術大会**  
日本臨床検査学教育協議会教員研修会同時開催  
「新しい臨床検査技師教育の創成に向けて」  
—教育・研究の検証—

●特別講演「感染症と癌に対して抗体を如何に役立たせるか」  
黒澤良和 (藤田保健衛生大学学長)

●第7回大会特別企画 パネルディスカッション  
「臨床実習指導者による臨床検査技師教育の検証」  
演題締切：平成24年6月15日

**日時** 平成24年  
**8月22日(水)~24日(金)** **会場** 名古屋国際会議場

大会長：寺平 良治 (藤田保健衛生大学)  
副大会長：涌澤 伸哉 (名古屋大学大学院)  
実行委員長：奥村 伸生 (信州大学大学院)  
協議会事務局長：岩谷 良則 (大阪大学大学院)  
協賛会事務局：新渡戸文化短期大学  
担当校：藤田保健衛生大学

一般社団法人  
主催：日本臨床検査学教育協議会  
後援：文部科学省 厚生労働省 日本臨床衛生検査技師会  
協賛：日本臨床検査学教育協議会、岐阜県臨床検査技師会、岐阜県臨床検査技師会、三重県臨床検査技師会  
\*参加費：本協議会正会員の申請に、日本臨床検査学教育協議会(日教協)会員の年報に限り17,000円  
聴取料(聴取料)は200円(聴取料)聴取料(聴取料)  
\*学生は無料(学生証を提示)  
\*国際臨床検査教育協議会(ICC)主催の国際臨床検査技師教育大会(2012年)の協賛校として参加(専門教科20名)

大会専用メールアドレス 7thjante@fujita-hu.ac.jp  
大会ホームページ http://www.fujita-hu.ac.jp/7thjante/

図1 第7回学術大会ポスター

\*藤田保健衛生大学医療科学部 臨床検査学科 rtera@fujita-hu.ac.jp

## I. 学術大会

主なプログラムとしては、特別講演、教育講演2、シンポジウム2、パネルディスカッション、ランチョンセミナー、一般演題発表などでした<sup>1)</sup>。

第1日目の特別講演では、担当校である藤田保健衛生大学学長・黒澤良和先生による「感染症と癌に対して抗体を如何に役立たせるか」と題した講演がありました。現代社会で大きな関心ももたれている二大疾患の診断・治療法の開発についての話題で、数多くある医療専門職教育の中でも、医師に次いで基礎医学の修得単位数が多い臨床検査学教育に関わっている会員にとっては、身近な題材で参考になる点も多かったのではないかと考えられます。

教育講演は2題あり、第1日目の教育講演Iでは金沢大学大学院の和田隆志先生による「人材(財)育成にはたす検査部の役割」が、第2日目の教育講演IIでは名古屋大学大学院の長坂徹郎先生による「検査と病理診断」と題した講演がありました。和田先生には、附属病院臨床検査部長も兼任されているお立場から、保健学類(科)と密接な連携の下に実践している卒前教育の様子や、検査部における臨床検査の質の向上を目指した地域医療や生涯教育への取組など、人材(財)を如何に育成していくかについての事例を、私見も交えてお話して頂きました。長坂先生には、形態学系会員の要望に応じて、目覚ましく発展、進歩している病理診断の背景とそれに関与してきた様々な検査法の開発、また近年求められている分子標的検査法の開発、導入の重要性などについてお話して頂きました。

本大会のテーマを最も反映した企画として、第1日目には学会シンポジウム「多様な臨床検査学教育の取組を検証し将来を考える」が、すべて正会員校の教員をシンポジスト(吾妻美子、上田順子、丹羽和紀、加藤亮二先生)に、第2日目にはパネルディスカッション「臨地実習指導者による臨床検査技師教育の検証」が、すべて中部地区で実際に臨地実習を受け入れている臨地実習指導者をパネリスト(松本祐之、北川文彦、加藤正彦、



写真1 学会シンポジウム

永井正信先生)にお迎えして行われました。ともに参加者も多く、様々な臨床検査学教育の重要課題に直面している会員の関心の高さが伺われました。学会シンポジウムに関してはその内容が後日、本誌に掲載される予定です。また、学会シンポジウムやパネルディスカッションの記事が業界新聞 The Medical & Test Journal 2012年9月1日(第1206号)にも取り上げられていますので、参加できなかった会員にはそちらもご一読願えればと思います。

第2日目のランチョンセミナー(協力:ロッシュ・ダイアグノスティックス株式会社)では、藤田保健衛生大学医学部の石井潤一先生(大学病院臨床検査部長兼務)に「循環器バイオマーカー Up-to-date」と題した講演をして頂きました。参加者数が多く、準備したメイン会場(第1会場)だけでは一杯になってしまい、やむを得ず音声と画像を急遽第2・第3会場とネットで結んで参加してもらいました。講演では研究結果も交え最新の検査情報が紹介され、同じ領域を専門としている先生方を中心に活発なご発言がありました。

また、今回は第3日目に「今後の認知症医療に期待される臨床検査技師～認知症専門臨床検査技師育成に向けて～」と題したスポンサードシンポジウム(協力:ニプロ株式会社)が、会員(浦上克哉先生)から企画提出されて実現しました。こうした会員からの積極的な発案が出てきたこと

は特筆すべきで、本会が盛況になりつつあることの兆しではないかと考えています。

一般演題は第2、3日目に、第2～4会場を使って行われました。会員校の協力の下、演題数も146(教育領域：53、専門領域 93)と予想以上の多くの申込がありました。特に専門領域では、教員だけでなく学生(大学院含む)による発表も多く、教員、学生相互に率直で活発な議論が展開されました。

## II. 教員研修会

教員研修会は教育講演とシンポジウムが行われました。教育講演は昭和大学医学部の高木 康先生から、「国家試験教育」についてのお話がありました。正会員校の教員としては避けては通れない重要な資格試験に関する内容を、元厚生労働省臨床検査技師国家試験委員長、現医学教育推進室教授としてのご経験からお話される内容は貴重でリアリティーがあり、大変役立つものでありました。シンポジウムは「これからの学生教育の課題」の題名の下、現在教育現場で多くの教員が抱えている重要な課題について、それぞれの分野で経験と見識が深い3人のシンポジスト(竹浦

久司、松下 正、金子 宏先生)をお迎えして行われました。教員として現場で困っている切実な事例について、シンポジストに少しでも意見を求めようとする会員からの発言も多く、終了してもそのまま会場内でシンポジストを引きとめて長時間議論をしている方もおられました。永尾暢夫研修委員長によると、今回時間の関係で充分議論しきれなかった内容については、今後も引き続き研修できる場を考えて行きたいとの事でした。

## III. 式典・懇親会

式典と懇親会は、第1日目の晩、会場を名古屋マリオットアソシアホテルに移して開かれました。式典は協議会が主導し、三村邦裕理事長と大会長の挨拶後、文部科学省高等教育局 吉田将路係長、厚生労働省医政局 田原克志医事課長(代読)、日本臨床衛生検査技師会 松本祐之副会長による祝辞、担当校 黒澤良和学長による歓迎の挨拶、第6回大会長 渡邊正友先生への感謝状贈呈などがありました。懇親会は大会実行委員会が主導し、涌澤伸哉、奥村伸生副大会長の挨拶、司会と、地元三重県臨床検査技師会 小林圭二会長(本年6月開催第61回日本医学検査学会長)の乾杯で幕を



写真2 実行委員の皆さん

開け、岩谷良則実行委員長の閉会宣言まで、楽しく歓談し、会員にとっては英気を養い、貴重な交流の場になりました。

### 終わりに

こうして本大会は盛会裡のうちに無事閉会することができました。想定していた数を越える会員、学生、日臨技会員などのご参加と、熱心な実行委員の皆さんのご協力に感謝申し上げます。これも、半世紀に亘る長い協議会の歴史を紡ぎ事績を上げて来られた先人達のお力に因るものと改めて感じ

ざるを得ません。大会開催の重要性にご賛同し、ご後援頂きました文部科学省、厚生労働省、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会と、広告掲載、協賛、補助金などでご支援賜りました37の関係企業、諸団体に厚くお礼申し上げます。

### 参考資料

- 1) 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会抄録集, 東京: 日本臨床検査学教育協議会事務局 2012; 1-221.